ガリラヤ　知っておきたいキリスト教のことば　(45)

新約聖書には、「ガリラヤ」という地名が出てきます。その土地に対して、よい印象を持たれる方が多いかもしれません。イエス様はガリラヤのナザレで生まれ、ガリラヤ湖で漁師たちを弟子にしました。さらにヨハネ福音書に出てくる、水をぶどう酒に変えた奇跡の舞台であるカナもガリラヤ地方にあります。

しかし旧約聖書をみると、ガリラヤという地は異邦人的な要素が多かったようです。というのも、ガリラヤはイスラエルの北部に位置し、外国からの攻撃を受けて、幾度も侵略されていたからです。そのため、人種的にも文化的にも、他民族との混合が見られていました。「異邦人のガリラヤ（イザヤ 8：23)」という表現は、このような背景から生まれています。

ようやく紀元前 1 世紀にマカベヤ王朝になった時に、ガリラヤにユダヤ人が多く入植しました。しかしイエス様が生まれた時代においても、ガリラヤはエルサレムから侮辱されていたようです。

エルサレムは宗教や経済の中心であり、イスラエルの救いはエルサレムから始まると思われていました。ところが宗教指導者が軽蔑していたガリラヤにイエス様は生まれ、ガリラヤのカファルナウムを舞台に活動するのです。

共観福音書では特に、ガリラヤで民衆と共に歩まれ、十字架につけられるためにエルサレムへと上っていくイエス様の姿が強調されます。そこには、エルサレムの権威主義に対する批判が込められているのかもしれません。

イエス様は当時の世界の中心ではなく、民衆の間に生まれ、歩まれました。そして民衆のいる「ガリラヤ」へ行くと告げられました（マタイ 28：10)。民衆の間にいつもいるという約束を、わたしたちにも与えられるのです。

次回は「姦淫」です。お楽しみに。